

平成27年1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

星、野鳥、未確認飛行物体？

星や、野鳥には少々関心があるので、空を見上げる機会が多い方だと思います。すると、「何だこれは、未確認飛行物体?!」という出来事を目撃することが、時々あります。以下は、その幾つかです。

◇もう大分以前の事です。夕方の北の空に、あるはずの無い明るい星が輝いています。望遠鏡で見ると、細かな光点が三角形に並び、星でも飛行機でもありません。実はこれ、気象観測用の気球が、風で予定外の方向に流されたものでした。東京天文台に電話し、「今北の空に」と話ただけで、担当の人は「斯く斯く云々」と説明されたので、問い合わせが殺到していたのでしょう。翌日の新聞にも、小さくでしたが記事に取り上げられていました。

◇ある晩、星を見ていると、ぼんやりと白い小さな塊が、漂うように夜空を移動しています。雲や飛行機、星雲・星団とも違います。急いで、双眼鏡で見ると、野鳥のシラサギ類（コサギ、ダイサギなど）の群れが、夜空を飛んでいました。白い大形の鳥の群れが、地上の光を淡く反映し、それこそ塊が空に昇るようにも見えていたのです。夜空を移動する野鳥はかなりいます。姿の確認は難しいのですが、星を見ていると、夜空からの鳥の鳴き声を聞く機会はたくさんあります。

◇地平線近くの月や太陽は、地上の景色との関係でかなり大きく見えることがあります。これは、目の錯覚に因りますが、地平線拡大と呼ばれます。満月は、日没とほぼ同時刻に東の地平線上に昇ります。この時、大気との関係で赤く見える大きな月が、不気味な飛行物体に見えることがあります。低空に雲がたなびいていたりすると、遠近感も増し、迫力が増加します。これは、月だということはすぐに解るのですが、これまでに何回もドキリとさせられ、見るのが楽しくなる現象でもあります。あくまでも目の錯覚による現象なので、写真に撮ると面白みは全く感じません。

◇大犬座にあるシリウスという星は、全天で一番明るい恒星として知られています。冬に入ると見る機会の多い星です。寒い季節、シリウスが地平線上に昇った直後、不安定な大気の影響で、その明るさや色がめまぐるしく変わり、星とは思えないことがあります。ある冬の夜、脂ぎるキラリキラリとした光と、虹のように変わる色に、これは何だろうと暫く考え込んだことがありました。

以上の他にも、車のライト、明るい流星等々が、何だろうの原因でした。原因は様々ですが、よく見て考えるとその全てで原因はわかりました。これらのことは、空飛ぶ円盤や超常現象としての未確認飛行物体ではありませんが、その時の状況や見る人の心理状態などにより、見え方は変わるかもしれません。

(文責 櫻岡幸治)